

日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会 呼吸器専門医・指導医
日本アレルギー学会 アレルギー専門医・指導医 介護支援専門員 認知症サポート医

地域との“つながり”で「幸福を創る医療」の実現を！



当院では今年4月1日より地域医療・福祉・介護等を包括的にコーディネートする「地域医療科」を新設。6月から新しい機能を有する地域包括ケア病棟(50床)が動き出しました。同病棟の運営を担う地域医療科・部長の辻文生先生にお話を聞きました。

多職種によるチーム医療を実践

私は11年間、吹田市内の病院に勤務し、今年の4月1日から当院へ着任し、新たに「地域医療科」を立ち上げさせて頂くことになりました。

もともと、前職の病院では呼吸器・アレルギー内科部長として、主に呼吸器疾患患者様の診療を担当してきましたが、同時にチーム医療や地域医療、予防医療、終末期医療、そして認知症ケア等にも強い拘りを持ち、積極的に関わってきました。

呼吸器内科のドクターとして多くの患者様を診療する過程で、近年、地域における高齢化の進展によりCOPD(慢性閉塞性肺疾患)や誤嚥性肺炎等、慢性呼吸器疾患の患者様が急増してきました。

治療後も介助がなければ食事を摂れない方、会話も^{おぼつか}覚束なく、施設・自宅等で寝たきりで過ごしておられる方等を眼前にして、「この方たちは本当に今の治療で幸せなのだろうか？」と感じるようになったのです。

私はもともと、医療の役割は「幸福を創ること」と考えていました。近年、急性期医療の現場では経済的合理性や科学性が追求されるようになりましたが、少子高齢化・多死社会が進展する今日では、地域で生活される慢性期の高齢患者様のニーズ、そして幸福を創る医療に対しては、合理性や科学性だけでは割り切れないと考えます。患者様の感情に「寄り添う」医療が今まで以上に必要であると実感するようになりました。その流れで、キュア(治療する)からケア(癒す)への転換が重要と考えるに至りました。それには、医師中心の治療から、医療・介護・福祉等の多職種が関与し、各専門分野の“強み”を生かしたチームアプローチが不可欠です。

私は前にいた病院で多職種が関わり、職種を超えて連携するSRCT(吹田呼吸ケアチーム)を全国的に先駆けて立ち上げた経験があります。また、私自身がケアマネジャーの資格を持ち、吹田市の行政関係者や介護事業所、開業医の先生方、訪問看護師、理学療法士等リハビリ専門職等の皆さんと、時間をかけた独自のつながりを持つ



ています。そのため、吹田市内で在宅のお年寄りを支える社会資源の現状は、ある程度把握しているつもりです。

そうした経緯から、このたび病院長の金香充範先生のご理解もあって、これまでの呼吸器の急性期を中心とした医療から離れて、主に慢性期のお年寄りを中心とした地域医療に注力していくことになりました。臨床医として長年、取り組んできたことの集大成として、新しいチャレンジをしたいと思っています。

多様な患者様のニーズに応える地域包括ケア病棟

国は6年後の2025年を目標に「高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るようにする地域の包括的な支援・サービス提供体制」として「地域包括ケア・システム」（以下、同システムに略）の構築を目指しています。当院では6月1日から同システムを推進する重要な役割を担う地域包括ケア病棟(50床)を導入しました。

私たち地域医療科では、地域包括ケア病棟(以下、当病棟)の運営や診療を担いますが、基本的に当病棟の入院期間は上限60日間。患者様の在宅復帰に向けて診療やリハビリテーション、看護等を提供することが主な目的です。ただ、それ以上に退院してから幸せに地域で生活することのお手伝いをしたいと思っています。多様化した幸福のありかたの追求です。

当病棟の対象となる入院患者様は各種手術、肺炎等の急性期治療後に在宅復帰に向けてリハビリテーションが必要な方、糖尿病やCOPDなどの生活習慣病に対する患者教育が必要な方、病状が安定しているが社会資源の調整がなければ在宅復帰が難しい方、リスクを理解したうえで何とか経口摂取を望まれる方、また要介護状態の高齢患者様を抱えるご家族が一時的に介護から解放され、休息が取れるようにするために当該患者様に入院して頂くレスパイトケアまで、多様です。病名に関係なく在宅での生活を目指している方には入院して頂くことが可能で、一人ひとりの患者様・ご家族のニーズに合わせて柔軟に対応出来る病棟であることを地域住民の皆様にも知って頂けたらと思います。私たちは当病棟に入院した患者様が、在宅復帰されてから、「どのようにして健やかに過ごして頂くか?」、「地域コミュニティとどのようなつながりを持てるのか?」等も見据えて、ケアを提供していきたいと考えています。



地域の「幸福寿命を延ばす」ことに貢献したい

地域医療科は当院の各診療科及び、看護師、MSW、栄養士、薬剤師、リハビリ専門職、介護専門職等、多職種を「繋げる」役割も担っています。この度、私たち地域医療科が中心となり、病院組織の中で「地域包括ケア委員会」を立ち上げることになりました。同委員会では、「この人は在宅で、どのようにすれば幸せに過ごして頂けるのか?」を最優先し、職域を超えた多職種で意見交換し、最適なケアを追求していきます。

地域の「平均寿命」よりも「健康寿命」、そしてその先にある「幸福寿命」の延伸に微力ながら貢献できれば嬉しいです。